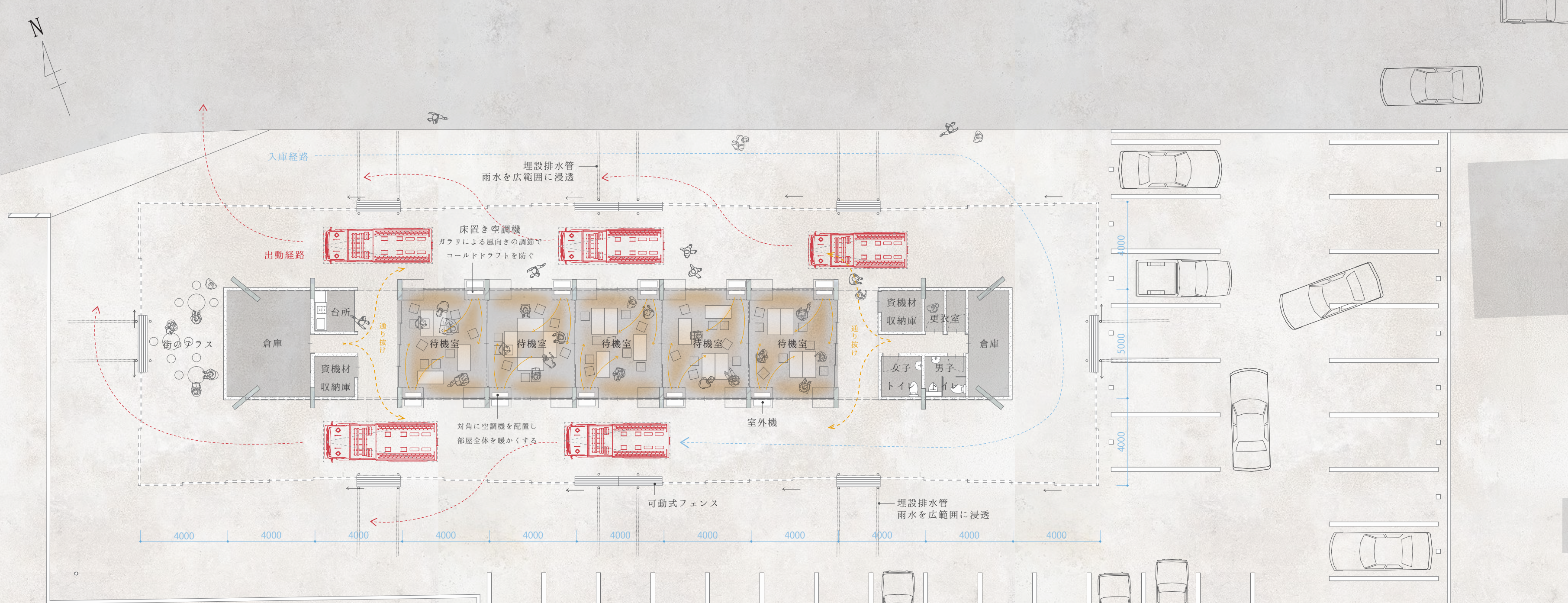


三原市屯所計画

住居地域と中学校の境界線上に、スケールを落とし、親しみのある落ち着いた佇まいの屯所とする。
 地域の灯台として照らす場（防犯）安心できる存在として正面を定めない表裏一体となった透明感のある屯所の計画。
 地域と繋がり地域を照らす灯火となる空間が安らぎと親しみを与える。
 道路、中学校など、どの方位からもポンプ車、消防団の働きや団員の顔が見えることで消防団に親しみを持ってもらうことを目指す。



面積表			
待機室	100 m ²	更衣室	4 m ²
車庫	124 m ²	台所	4 m ²
資機材収納庫	8 m ²	倉庫	30 m ²
便所	8 m ²		

配置図兼平面図 S=1:150

■ ライフサイクルコストへの配慮

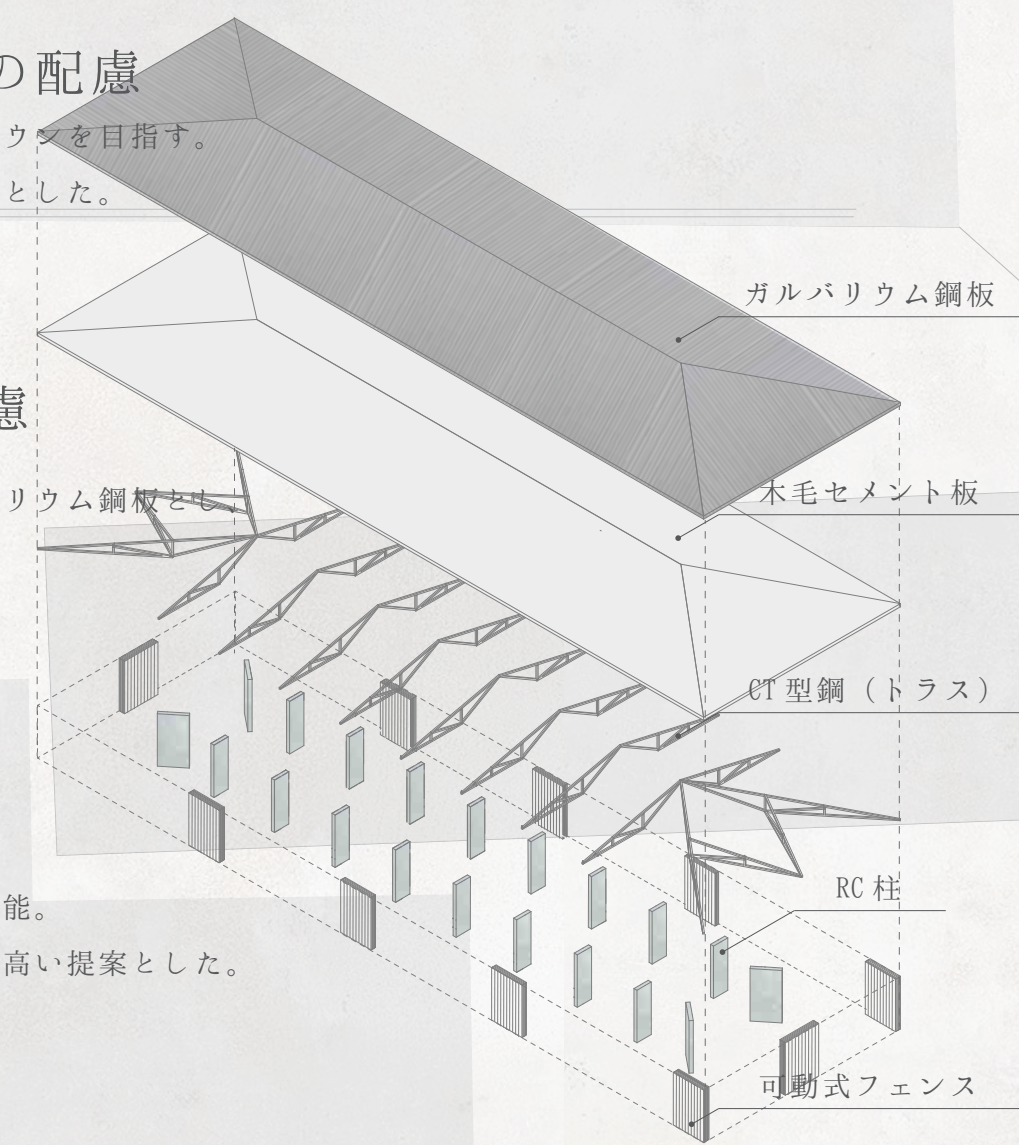
自然通風と自然採光による設備費のコストダウンを目指す。
 基礎断熱と個別空調のみによる温熱環境計画とした。

■ 効率的な維持管理への配慮

床は土間コンクリート、屋根は耐候性ガルバリウム鋼板をモ
 メンテナンス性に優れた素材とした。
 設備更新が容易なスケルトン天井とした。

■ 機能性の配慮

待機室からどの車両へも最短の距離で乗車可能。
 シンプルな構造体によるフレキシビリティの高い提案とした。



構造計画と設備計画

構造

4mスパンに配置した長さ1mのRC造の壁に、150cm角のCT型鋼を組み合わせ合わせたトラスをかける。
 その上に、耐火・耐熱・調湿・耐朽・吸音に配慮した木毛セメント版、軽量であるガルバリウム鋼板を重ね、間に屋根断熱のための通気層を設けた屋根をかける。

脱炭素社会の実現にむけて

採光

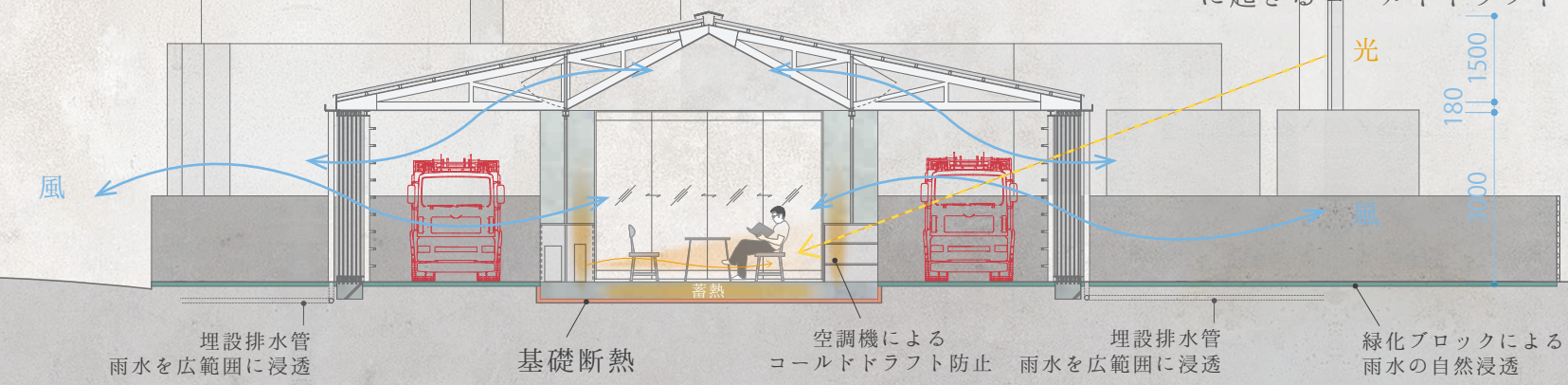
深い軒を設け軒下空間を車庫とする。夏は陽が直接部屋に差し込むことを防ぎ、冬は陽を家の奥まで招く。

通風

待機室は全方面開放することができ、待機室間の上部は開放しているため、居室全体に外気、空調を利用した温風を行き渡らせることが可能である。

蓄熱

冬は午前中の陽の光を利用し、熱を蓄熱する。置き型エアコンを待機室の対角に配置し、部屋全体を温める。また、ガラスによる風向きコントロールでガラス面に起きるコールドドラフトを防ぐ。



北側立面図 S=1:150

断面図 S=1:150



中学校と屯所

中学校側から、屯所内が見えることで子どもたちに消防団への興味を持ってもらうことにつながる。
 地面に流れた雨水は緑化ブロックにより自然浸透し、時間をかけて蒸散する。



地域へひらく

軒下の空間を開放し、近隣住民同士、消防団と近隣住民との交流の場とすることで、近隣住民と距離が近く、地域に開いた屯所となる。



待機室

フレキシブルに使える待機室



街の灯台

施錠時でもポンプ車、積載車が見えることで安心感を与え、屯所、消防団の存在を印象づけ、認知してもらう。